

平成 22 年度公立高校入試問題の傾向 国語

近年の公立入試では、ほぼ全ての県で作文が出題されています。そこで今回は、H22 年度の公立入試に出題された「作文」を集めました。作文のご指導の参考にしていただけますと幸いです。

H22 年度 「作文」について

●出題パターン

与えられたテーマについて自分の意見・体験を書くパターンが最も多く、約 50%を占めている。次いで、文章や資料を読み取り、その内容を基に自分の意見を書くパターンも多く出題されている。読解問題の中の作文においては、図表の読み取りや二つの文章の読み比べなど、題材自体が新傾向のものも増えている。また図表については、単に「参照」するだけでなく、「読み取ったことを書く」「考察する」など、より思考力を問う出題も見られる。

出題パターン	出題県数
題を与えられて書く	14
立場を決めて書く	3
データ分析型作文	8
文章読解型作文	12

●出題テーマ

例年と変わらず、日常生活に関する身近なテーマが多い。しかし、昨年多かった「言葉」については若干減少し、テーマ自体は多岐にわたった。全体の傾向としては、「読書」「環境」「働くこと」など、具体的な例をあげて価値観を書かせるものが多い。

●文字数

作文問題の約 75%が、100 字～200 字で答えさせるものである。しかし昨年と同じく、300 字～400 字程度と長めの作文を出題する県もあった。

作文問題には、暗記に頼らずどんなテーマにも対応できる力が必要となる。好学出版国語科では、作文対策には、ただ演習量をこなすだけでなく、構成や手順をきちんと身につけることが重要だと考える。ウイニング・ウイニング PLUS では、こうした考えのもと、作文対策を行っている。

また、文章や資料の読解型作文が増える近年、作文には書く力に加え、読解内容を活用する力が必要となる。今後も、読解・記述に加え、活用力の育成を国語科の目標とし、教材制作を行っていきたい。